

名古屋城二之丸地区 令和2年度（2020-2021）試掘調査報告

調査期間 令和3年3月8日から3月19日

調査地点 愛知県体育館の東側縁辺

調査面積 16 m² (2m×4m のトレンチ、2か所)

調査目的

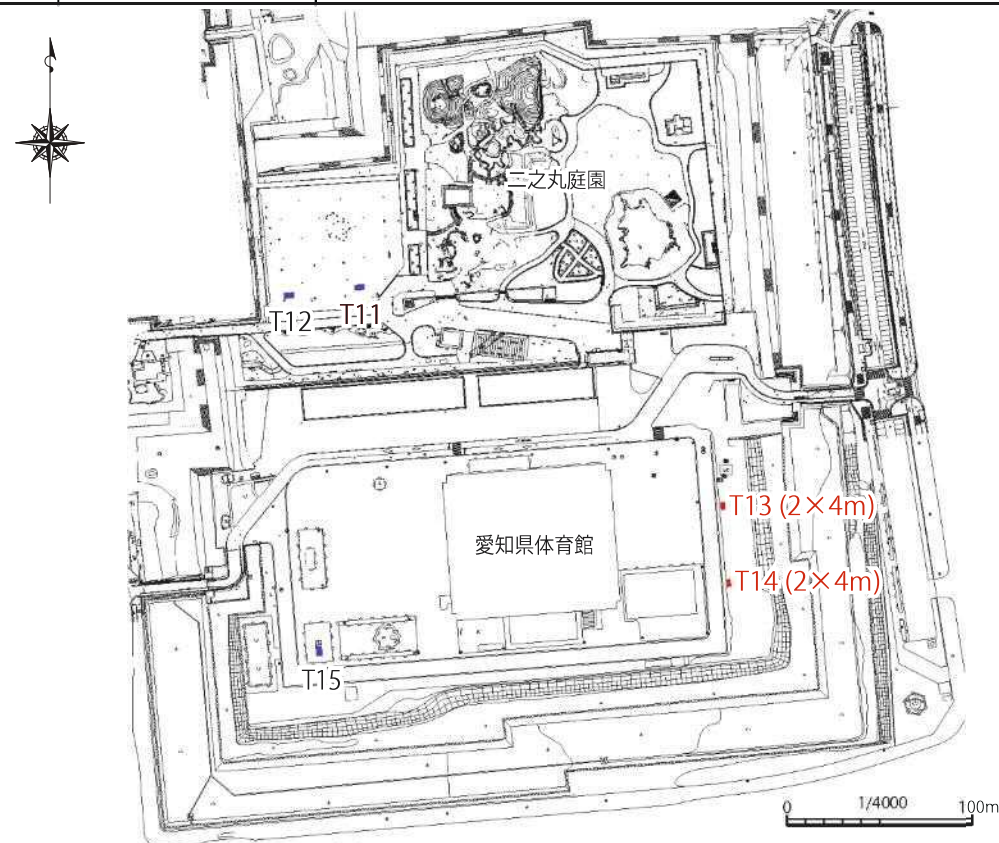
名古屋城二之丸地区の保存活用のため、地下遺構の残存状況を把握し、本格的な調査に向けての基本的資料を得るため。

調査結果

当初、名古屋城二之丸地区では5か所の調査を予定していたが、排土工事の契約不調や他の調査との工程調整等のために、十分な調査期間を確保できず2か所のみ調査を実施した。

調査成果としては、向屋敷の北境に関わると思われる遺構と馬場に関連すると思われる遺構を検出することが出来たが、馬場の土居に関わる遺構は確認できなかった。今回の調査で近世の遺構面が良好な状態で残っていることを確認できた。

トレンチ番号	調査目的	調査結果
T13	向屋敷の北境の確認	近代(標高13.1m~13.5m)と近世(標高12.9m~13.0m)の整地層を確認 トレンチの北端で向屋敷北境の構造物に伴うと思われる石を確認 トレンチの南側で馬場に関わると思われる盛砂を確認
T14	馬場関連遺構の確認	近代の遺構面を3面確認(各々の検出標高13.1m、13.4m、13.5m) 標高13.1mで花崗岩敷石を検出、第六連隊の厩に関わる遺構の可能性が高い 近世の遺構面を2面確認(各々の検出標高12.8m、13.0m)



■ 令和2年度（2020-2021）調査トレンチ ■ 令和2年度（2020-2021）未調査トレンチ

図1 トレンチ位置図



T13 完掘状態（南から）



T13 北壁根固め石？（西から）



T13 中央トレンチ 盛砂（東から）



T14 完掘状態（北から）

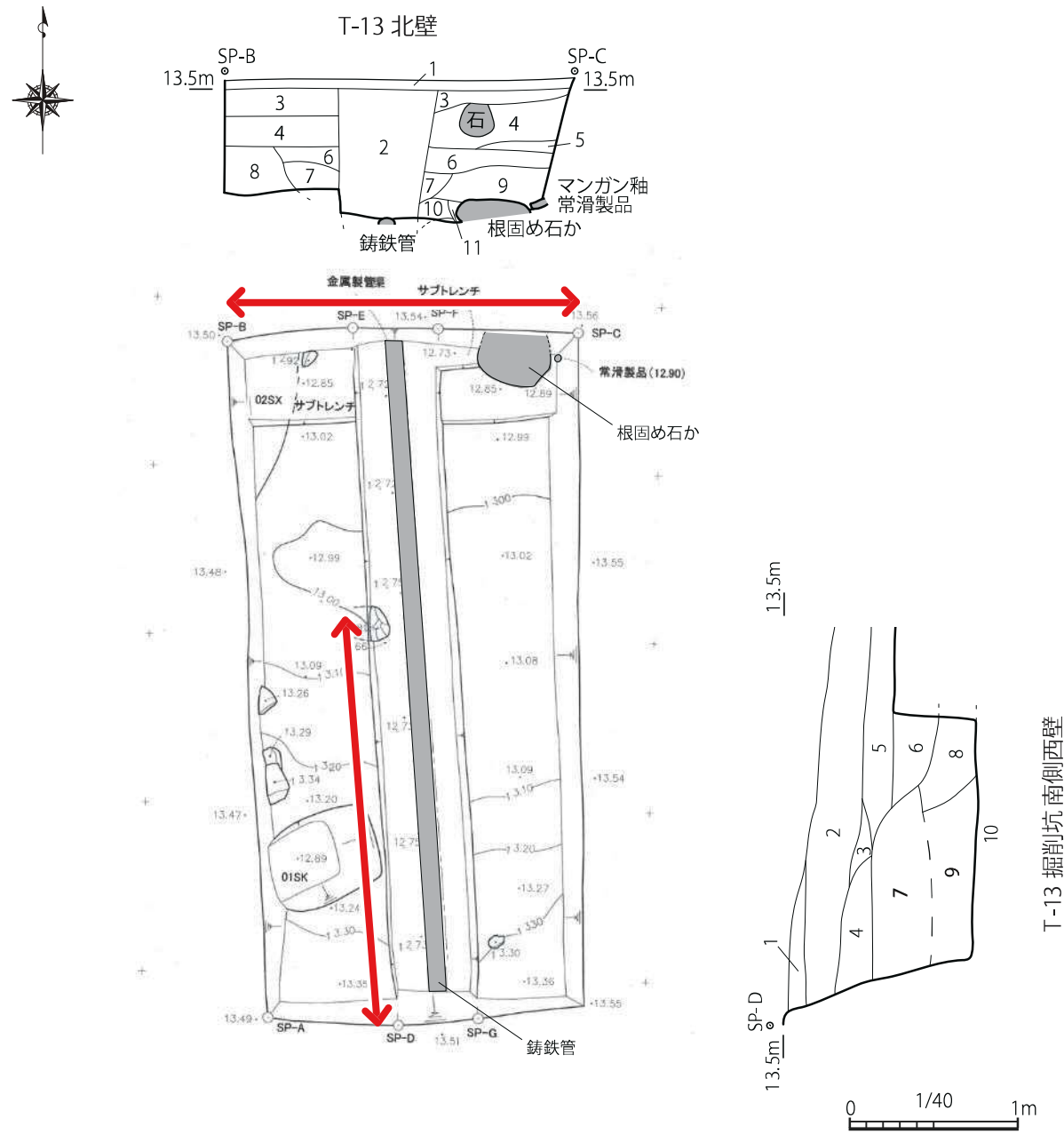


T14 花崗岩板石（北から）



T14 中央トレンチ南側西壁断面（南から）

図2 T13・14 完掘状況写真



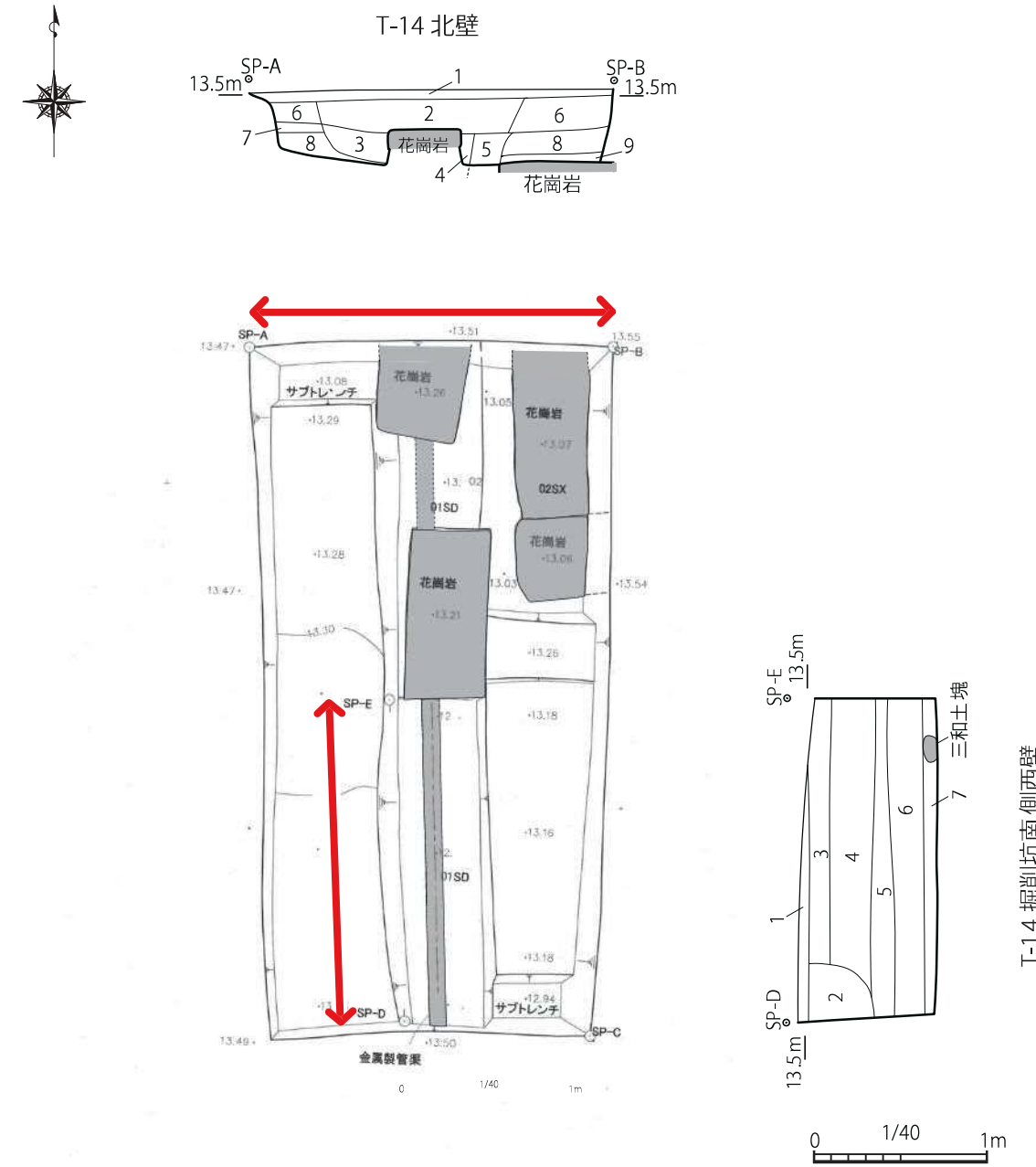
T13 北壁層序

- 1：表土
- 2：管渠の埋土
- 3～7：現代の埋土（コンクリート含む）
- 8：近代以降の層
- 9：近代の整地層（マンガン釉の常滑製品出土）
- 10：近世の整地層（瓦出土）
- 11：根固め石？の掘方埋土

T13 掘削坑南側層序

- 1：表土
- 2：近代の整地層（北壁の9層と同じ）
- 3：現代攪乱
- 4：近代以降の層
- 5：近世の整地層（瓦出土、北壁の10層と同じ）
- 6：近世の整地層（遺物なし）
- 7：盛砂1（遺物なし）
- 8：盛砂2の崩落土
- 9：盛砂2（遺物なし）
- 10：近世？の整地層（瓦出土）

図3 T13 平面図・断面図



T14 北壁層序

- 1：表土
- 2～5：管渠の埋土
- 6～8：現代の埋土
- 9：近代以降？の整地層

T14 掘削坑南側層序

- 1：近代以降の整地層
- 2：近代以降の遺構
- 3～5：近代以降の整地層
- 6～7：近世の整地層（瓦出土）

図4 T14 平面図・断面図